

学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する 調査研究（2年次／3年）

大分県教育センター教科研修・ICT推進部
指導主事 熊谷 天香子

I 研究の背景と目的

小・中・高等学校の学習指導要領総則（平成29年・30年告示）において、初めて全校種にわたって「キャリア教育の充実」が示された。大分県においては、子ども・若者の進路・職業意識の希薄さや社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題等への対応が求められており、大分県長期教育計画（「教育県大分」創造プラン2016）改訂版〈令和2年3月〉に「キャリア教育・職業教育の充実」を明記し、キャリア教育を推進している。

そこで本研究は、3年計画で大分県のキャリア教育について現状を把握するとともに、実践事例を収集及び周知することで、キャリア教育に関する大分県教育センターにおける研修の充実を図り、大分県の更なるキャリア教育の推進に資することを目的とする。

II 1年次の調査研究の結果

調査研究の1年次ではキャリアノート及び学級活動・ホームルーム活動についての実態を把握し、今後の課題を明確にするため、アンケート調査を行った。アンケートは、令和4年度に県教育センターで実施した小・中・高等学校の教諭（在職1年目～11年目）対象の研修受講者（計862名）に行った。アンケートの結果からは、次の2点が課題として挙げられた。

- ①キャリア教育について十分な理解を図ること
- ②学級活動・ホームルーム活動（3）等のキャリア教育に関する具体的な実践事例の収集及び周知

III 2年次の調査研究の内容

上記課題を受け、調査研究の2年次（本年度）では、令和5年度のテーマ別研修において「キャリア教育研修—学年間・校種間の連携—」を新設し、各学校のキャリア教育の充実を図ることとした（課題①への対応）。またキャリア教育の実践事例を収集すべく研究協力校を定め、実際にどのような実践を行っているのかを調査することとした（課題②への対応）。研究協力校は、臼杵市立臼杵南小学校・臼杵市立南中学校、大分県立大分豊府中学校・大分豊府高等学校とし、キャリア教育実践の取材を重ねた。本年度の調査研究は、課題②に係る実践事例の収集に軸を置いて進めている。

IV 調査・研究の結果

1 キャリア教育研修の実際

1-1 研修内容について

令和5年8月に「キャリア教育研修—学年間・校種間の連携—」を実施した。講義前半では、「重要事項の整理と確認」というテーマで、キャリア教育の意義と基本的な考え方、現行学習指導要領から見るキャリア教育の押さえるべきポイント、学級活動・ホームルーム活動におけるキャリア教育について確認をした。講義後半では、「各校種のキャリア教育の基本的な考え方と実際」というテーマの下、大分県版「未来をえがくキャリア・ノート」の内容に触れながら、他県の実践事例紹介や、教師

によるフィードバックの在り方について、各校種ごとにグループ協議を行った。

1-2 研修評価について

受講者による研修評価を見ると、キャリア教育の意義や教科との結びつき、キャリアノートの扱いについてなどを、研修を通して理解できたという肯定的な意見が多かった。「研修内容に対して理解が深まった」か、という項目について達成度を4段階で表した研修評価を見ると、平均値3.7/4であった。このことから、目的や意義などについては概ね受講者の理解が得られたものとする。

一方で、キャリアノートの活用や手立て、校種間での連携については疑問点が残るという意見もあった(【別添資料】1-1参照)。より現場で活かせる研修になるように、研究協力校での実践事例と、今後取材していく校種間連携の事例を、当センターでの研修へ還元していく必要がある。

2 キャリア教育で育成する力について

本年度集めた実践事例をまとめるにあたり、キャリア教育で育成すべき力を右の「表1」に示す。

キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」は右の図の①～④の能力で構成される。この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。特に順序

【表1】育成する「基礎的・汎用的能力」

①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプランニング能力

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(審中)」(平成23年1月)参照

があるものではなく、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身につけることを求めるものでもない。また、これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、子どもの発達段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。

本調査研究では、研究協力校が表で示す①～④のどの力の育成につながる教育活動を行っているかを別紙上で示しながら、以下に事例を紹介していく。

3 キャリア教育に関する実践事例(臼杵市立臼杵南小学校・臼杵市立南中学校)

3-1 臼杵南小学校、南中学校でのキャリア教育の実践

臼杵南小学校と南中学校は、臼杵市が取り組んでいる「小中一体教育」の連携校として、義務教育9年間を見通した系統的な教育を目指している。キャリア教育に関しても小学校と中学校の連携を意識し、教職員一人一人がキャリア教育についての理解を深めながら、その取組の充実を図っている。

臼杵南小学校では、「キャリア教育推進計画」を作成し、年間のカリキュラムの中にキャリア教育を位置づけている。育成を目指す能力(担任の思い)を設定し、これまで取り組んできた様々な活動とキャリア教育とのつながりを整理し、計画的にキャリア教育を進めている。(【別添資料】1-2参照)。

南中学校では、令和5年度の学校教育目標の中に「つなげる」というキーワードを入れ、様々な教育活動のつながりを意識し、単発的な取組ではなく持続性のある取組となるように学校運営を行っている。また、学校経営の重点の一つにキャリア教育を位置づけ、職場体験学習などの学校行事だけでなく、各教科でキャリア教育の視点を意識した授業実践を行っている。特に今年度からは「自分らしい生き方」をテーマに、生徒、教職員はもとより、保護者や地域と連携を図りながら、授業を含めた中学校での学習活動が生徒一人一人の将来につながるような取組を進めている。

3-2 本年度の主な取組

3-2-1 小学校学級活動における学期末の振り返り活動

臼杵南小学校6年生の2学期末学級活動では、「学習や生活・出会いや行事を振り返り、何を学んでどのように成長できたのだろうか。」という課題設定で、大分県版キャリアノートを使ってこれまでの振り返りをした。この際、自分を振り返るだけでなく、友だちからメッセージをもらい自分の成長した部分を知るという活動が行われていた。自分が気づいていない成長した部分を他者との関わりの中で把握し、且つそれを認めてもらうことで、充足感・自己肯定感を得られる学級活動となっていた（【別添資料】1-3参照）。振り返り活動をすることで、児童・生徒一人一人が、自分の成長の把握と自己理解を進めることができ、キャリアノートを使用してその足跡を残していくことができる。

3-2-2 県版キャリアノートと南中学校版キャリアノート「キャリアファイル」の併用

南中学校では、総合的な学習の時間の取組を中心に、学校独自のキャリアノートを使用して生徒が学びの記録を残している。総合的な学習の時間や学校行事で感じたこと・考えたことを日々記録に残していくことで、生徒が自分自身の変容をいつでも振り返ることができる。

また、各教科の授業での学びとキャリア教育を結びつけるための工夫として、教職員が各教科の「キャリア教育に関連する力」ループブックを作成し、生徒と共有している。このループブックは南中学校版キャリアノートにも記載しているため、生徒がいつでも見返せるような工夫がされている。

このように学校独自のキャリアノートを使って日々残してきた様々な記録は、学期の振り返りや1年間の振り返りとして学級活動の時間に大分県版のキャリアノート上にまとめられていく。2つのキャリアノートを併用することで、日々の教育活動における短期的な振り返りと、学期ごとや学年ごとの長期的な振り返りを行うことができている。（【別添資料】1-4参照）

3-2-3 キャリアノートへの記入の実際

臼杵南小学校、南中学校ともに、キャリア教育に関わる活動での学びをキャリアノートを通して振り返り、今後に向けた見通しを持つ活動を行っている。大分県版キャリアノートは小学校と中学校が1冊の合本となっているため、この1冊のノートを通して小学校から中学校卒業までの9年間に渡る自分の変容、成長をいつでも見返すことができる（【別添資料】1-5参照）。実際のノートの記述を見ると、「1学期できなかつたことができた」「小学校の時に苦手だったことが中学校でできるようになった」など、様々な学習活動を通しての成長が見られ、児童・生徒自身のキャリア形成につながっていくと考えられる。

3-2-4 ゲストティーチャーから学ぶキャリア教育

南中学校では、月1回程度ゲストティーチャーを招聘し、職業観や地域の魅力を生徒へ伝える取組を行っている。ゲストティーチャーの多種多様な考えや、各々の言葉で語られる「自分らしい生き方」に触れることで、生徒自身が将来の自分の姿を思い描く機会となっている。また、そこで思い描いた未来に近づくために、今の自分には何が必要なのかを考え、実際に行動に移すことができるようになることを目的としている。生徒は感じたことを先述の南中学校版キャリアノートに毎回書きためていく。

3-2-5 南中学校伝統活動「炭づくり活動」を通して学ぶキャリア教育

南中学校には、「炭づくり活動」という伝統行事があり、この活動を通して、働くことの意義に触れる

機会となっている。学校教育目標の中に「つなげる」というキーワードがあるように、教職員と生徒、生徒と保護者のつながりだけでなく、生徒と地域の方々をつなげる場にもなっており、地域の魅力に触れ、地域を愛する心を育てる取組である。生徒からは、「働くってきついことや地味なことばかりだと思った。でも、そのきついことや地味なことがつながって一つのものが作り上げられていることに気づいた。」といった声もあり、仕事のやりがいを体験活動の中で感じとる様子が見られた（【別添資料】1－6参照）。

3－2－6 小中一体教育における合同夏期研修会（小・中をつなぐキャリア教育講演会）の実施

小中一体教育における小中合同夏期研修会を実施し、小中それぞれの実践を交流することで、校種間連携を図っている。本年度は、大分大学教育学部の長谷川祐介教授を講師として招聘し、カリキュラムマネジメントの視点を踏まえたキャリア教育の考え方を学び、小中で共通理解を図った。

4 キャリア教育に関する実践事例（大分県立大分豊府中学校・大分豊府高等学校）

4－1 大分豊府中学校と大分豊府高等学校でのキャリア教育の実践

大分豊府中学校と大分豊府高等学校は、併設型中高一貫教育校であり、中学校と高等学校が同じ教育目標のもと6年間継続した教育を行っている。中高一貫校という特色を活かし、中高で連携した多様な教育活動を展開している。生徒に対して様々な取組を準備し、外の世界を見る「窓」を作り、「感性」を育むことを目指し、中高6年間で「つくりたい未来」や「進むべき道」を見つけられるようキャリア教育の視点に立った教育活動に取り組んでいる。

4－2 本年度の主な取組

4－2－1 中学校学級活動における学期末の振り返り活動

大分豊府中学校では、各学年で独自のポートフォリオを使用している。ポートフォリオを使用することで、学級内に常時掲示することが可能となるため、生徒はいつでも自分の立てた目標や振り返りを確認することができる。学期末の学級活動の時間には、ポートフォリオを使用してこれまでの自分を長期的な視点で振り返る。このポートフォリオは最終的には県版キャリアノートに記録として貼付していく。中学校3年生は、「今学期特に頑張ったこと」「担当している係の取組状況」「学級目標の達成度」「今学期自分ができたこと」「次学期に向けて改善したいこと」など、独自の項目が設定されている（【別添資料】1－7参照）。さらに大分豊府中学校では、このポートフォリオをもとに、学級活動の時間に担任・副担任が生徒と個人面談を実施し、当該学期の振り返りや次の学期に向けて、また日々の困りなど、対話を通して生徒と想いを共有する活動を行っている。

4－2－2 中学生徒会の取組“my way project”

本年度後期より“my way project”という生徒会独自の取組を開始した。「将来なりたい職業」や「最終的に目指すなりたい自分」といったキャリアの視点に立った長期的な目標と、今月継続して実施したい短期的な目標を1枚のシートに各個人が明記し、それを直近の一个月間でどの程度達成したいのか見通しをたて、生活ノートに貼り、いつでも見える状態にする。自分が本当にできるようになりたいことや継続することで何か得られるものを目標作りのルールとしている。自らの予定を書き、スケジュール管理をし、目標に対する達成具合を自己評価していくことで、自己管理能力の育成を目指している（【別添資料】1－8参照）。

4-2-3 休日特別講座「大分花園中学校」を通して学ぶキャリア教育

年間5回、大学教授や企業が講師となり、専門的な内容について実技や実験、対話を交えての特別講座を行う（【別添資料】1-8参照）。講座の中では、今学校で学んでいることがどのように職業とつながっているかを体験したり、味噌やK-popといった身近な題材が取りあげられていたり、生徒の興味・関心を広く引く内容となっている。生徒は興味のある講座を自由に選択受講することができ、保護者の参観も可能である。「楽しい、おもしろそう」という生徒の興味や思いを学びの起点とし、自分で学ぶこと、自分の将来に向けて作りたい未来を描くこと、そして自分で考え自分で行動できるたくましさにつながることを目指し、講座が設定されている。

受講した生徒からは、「それぞれの分野での楽しさや面白さが自分のモチベーションの向上につながった。」「今まで苦手意識があった部分にも今後は積極的に取り組んで関わっていきたい。」「将来を考える良いきっかけになった。実際に家族と話して共有したい。」という感想が寄せられた。

4-2-4 高等学校「ミラ Navi（未来 Navigation）」を通して学ぶキャリア教育

大分豊府高等学校では、総合的な探究の時間（名称「ミラ Navi」）で、探究したい学部学科や学問分野についての学習が行われている。高校1年生の1学期には、自分の持つ可能性、将来への視界を広げるために、自分が進みたい・興味がある分野とは異なる分野を起点に調べ学習を継続して行った（【別添資料】1-5参照）。この調べ学習や、学習の中での生徒同士の対話を通し、高校3年間をかけて自分と向きあいながら自己理解を深め、社会問題や社会貢献へ視野を広げながら自身の将来に向けて系統立てて学習を進めていく。中学校でもミラ Navi という同じ名称の総合的な学習の時間が設定されており、中学では郷土・勤労・平和・人権と学習を進め、中学最終年度には社会参画をテーマにこれまでの学びとこれからの未来をつなげた探究活動を行う。中高ともに「ミラ Navi」という共通した学びの中で、6年間がつながる学習活動が行われている。

4-2-5 中高連携のキャリア教育

中学校・高等学校が連携し、「高校生サポーター」「中高パネルディスカッション」を学級活動の時間を使ってそれぞれ年2、3回ずつ実施している。

「高校生サポーター」では、高校生が中学生の各教室に出向き、学習だけでなく、将来の夢や進路選択、この先の高校生活についてなどを座談会の様な形式で中学生と交流する。

「中高パネルディスカッション」では、進路実現をテーマに、高校生が中学生からの質疑応答に答えながら将来についてともに考えていく。

中学生は高校生をロールモデルとしてキャリアを形成し、高校生は中学生に話をする事で、自分の目標を再確認できる。中高一貫校ならではの特徴を活かしながら、お互いに刺激を与える活動となっている。

V 調査研究のまとめ

1 キャリア教育研修について

本年度実施したキャリア教育研修では、受講者から肯定的な評価が多く寄せられた。キャリア教育への理解度を高めていくことで、キャリアの視点を意識した指導が充実していくことが考えられる。また、現場で活かせる研修内容となるように、研究協力校で取材した事例を研修へ還元することが必要である。同時に、各学校でキャリア教育が教科・総合・道徳の中にどのように位置づけられている

のか、実際の取組状況はどうか、といった「カリキュラムマネジメント」の視点を持つことも必要と考える。次年度は特別支援学校対象のキャリア教育研修の新設も予定されており、各校種におけるキャリア教育の更なる充実が期待される。調査研究を通して県教育センターでの研修へ還元していきたい。

2 研究協力校における実践事例について

2-1 キャリアノートについて

キャリアノートの活用に関する「教育課程編成・実施状況調査（令和5年12月実施）」（義務教育課）によると、学期末、学期はじめの場面でキャリアノートを活用・記入しているかという問いに対して、大分県内の小学校では100%、中学校では97.5%が活用しているという回答であった。それ以外の場面で活用したかという問いでは、小学校では28.2%、中学校では48.3%であった。研究協力校においては、学校の実態に合わせた活用が展開されている。学期末、学期はじめ以外の場面におけるキャリアノートの活用については、今後実践を追っていく。また、学年間・校種間の引き継ぎに関しては、令和5年度末から令和6年度にかけて、引き続き研究協力校での実態や実践を追っていくこととする。

2-2 学校組織としてのキャリア教育の取組について

研究協力校では、学校や地域の特色、子どもの発達段階を踏まえ、キャリア教育で育成する4つの能力につながる工夫された教育活動を実施している。「キャリア教育」の視点を持って、全体計画と年間指導計画の中にキャリア教育を位置づけながら、更なる充実が望まれる。

3 次年度に向けて

今年度の調査研究から、次の2点を今後の課題として挙げる。

①キャリア教育研修の充実

②学級活動・ホームルーム活動（3）等のキャリア教育に関する具体的な実践事例の収集及び周知

令和6年度は、今年度から継続して「キャリア教育研修—学年間・校種間の連携—」を実施し、キャリア教育の充実につなげることを目指し、キャリア教育の推進に寄与したい。また、継続してキャリア教育の実践収集を研究協力校にて行う。特に年度末の3月から年度初めの5月にかけては小学校と中学校、中学校と高等学校のそれぞれ校種間でどのようなキャリアノートやキャリア教育に関する内容が引き継がれているか、実態把握と実践事例を調査する。

以上の点を踏まえながら、次年度は調査研究最終年度としてまとめを行っていく。

VI 参考文献等

- ・中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア・職業在り方について（答申）」平成23年1月
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書」令和2年3月
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」令和3年10月
- ・大分県教育庁義務教育課「教育課程編成・実施状況調査」令和5年12月

【はじめに】

キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力①～④を以下にまとめる。また、この別添資料においては、それぞれの実践事例が表の①～④のどの能力と特に結びついているか、併せて示す。

【キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力】

①「人間関係形成・社会形成能力」

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

〈例〉 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど

【表1】 育成する基礎的・汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプランニング能力

②「自己理解・自己管理能力」

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

〈例〉 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動など

③「課題対応能力」

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

〈例〉 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など

④「キャリアプランニング能力」

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

〈例〉 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など

【別添資料1-1】

キャリア教育研修

【目的】 キャリア教育の充実に係る講義・演習・研究協議を通して、実践的指導力の向上を図る。

【内容】 令和5年8月に実施。中堅教諭等資質向上研修の選択研修として小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の33名が受講した。

〈受講者からの感想〉

- ・キャリアノートについて、「記入させなければいけない」という負担感があったが、子どもにとってこのノートへの記述を通して大人から認めてもらうことが何より大事なことで学びの出発点と

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

なり、未来への橋渡しになるものだという事に気づいた。子どもたちが学びと自分のつながりを持てるような展開を考えて、これからの教育活動を送っていきたい。

- ・生涯にわたって勉強を続けることの楽しさや意義を目の前にいる生徒にどうやって伝えることができるだろうかと考えた。キャリアノートは長期的な振り返りができるものであり、将来の見通しを含めて、生徒を主体的にさせる活動になると感じた。
- ・校種間の連携の重要性とその背景についてはよく理解ができた。キャリアノートの有効性についても理解が深まったが、いつ・どうやって使うのか、どう引き継いでいくのか、具体的な手立ても思いつかず、実践的指導力の向上に繋がらなかったか、不安な部分がある。



★校種間や学年間での引き継ぎや連携については、どのような取組がされているのか、今後取材を重ねていく。

【別添資料 1-2】

臼杵南小学校のキャリア教育全体計画

キャリア教育推進計画
学校全体目標 将来の夢や希望を持ち、自己実現を目指す態度の育成

育成を目指す資質能力(担任の思い)

- ◆思い1 (人間関係形成・社会形成能力) 友だちの考えや立場を認め、目的に向かって高め合う学級になってほしい。
- ◆思い2 (自己理解・自己管理能力) 自分の仕事や活動に責任や見通しを持って最後まで取り組んでほしい。
- ◆思い3 (課題対応能力) 社会に関心をもち情報を集め、主体的に問題解決に向かう力をつけてほしい。
- ◆思い4 (キャリアプランニング能力) 実社会の様々な仕事を知り、働くことの大切さ、やりがい、苦労を理解してほしい。

基本姿勢

- ◆基本姿勢1 全教科・領域を通じた育成
- ◆基本姿勢2 体験的な活動の取組
- ◆基本姿勢3 地域リソースとの連携
- ◆基本姿勢4 発達段階に応じた取組

教育活動の具体

4つの重点的取組

- I 道徳教育
- II めぐり活動
- III 環境教育
- IV 卒業プロジェクト

Strength

キャリア教育推進における南小の強み

小規模特認校

少人数の強みを生かした個別最適な学び
縦割り班と(縦軸)と地域連携(横軸)で
きめ細かな教育支援と個別最適な学びを実現

小中一体教育

中学校キャリア教育との接続
公開授業の相互参加やキャリアノートの活用で
次のステージへの確かなキャリアパスを形成

教育活動と関連する基礎的・汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプランニング能力

・臼杵南小学校の実態に合わせ、育成したい力を自分たちの言葉でわかりやすく示している。



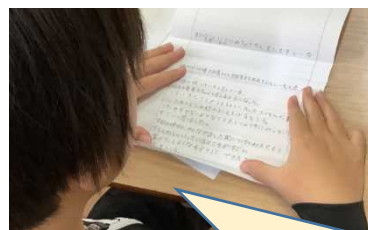
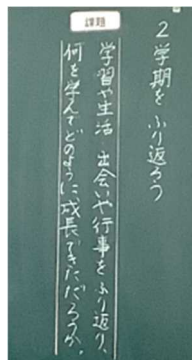
- ★児童、教職員と共有できるような具体的でわかりやすい内容にしている。
- ★「重点的取組」を設定し、カリキュラムに位置づけることで取り組みやすい。

★カリキュラム・マネジメントの促進がされている。

【別添資料 1-3】

臼杵南小学校の学級活動

- ①課題の下、自分を振り返る
- ②友だちから寄せられた言葉から、自分自身の成長に気づく



友だちからは、
「人が気づかないようなことを自主的にやっていてすごい」
「案がもっとよくなるようにプラスで意見を出している」と
いった言葉が寄せられた。



③がんばったこと、できるようになったことをまとめていく

教育活動と関連する基礎的・汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプランニング能力

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

6年生の教室の例

★教室には最後の卒業に向けて、これまでの学びの足跡が掲示されており、いつでも振り返ることができるような工夫がされている。



【別添資料 1-4】

南中学校版キャリアノート「キャリアファイル」の作成と活用

〈表紙〉



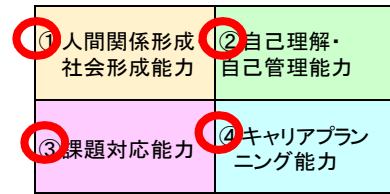
〈教科とキャリア教育の結びつき〉

～自分が望む生き方を実現していける力～

	人間関係形成能力・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
国語	話し合いやスピーチ等で相手の考えや立場を理解する力を高める。 話し合いやスピーチ等で相手尊重しながら自分の意見を伝える。	自分の経験と結びつけながら文章を書く。 ワークや漢字など、効率的に学習する。	話し合いのテーマや作文の課題を決定する。 課題に挑戦して、話し合いのまとめをする。	自分の経験や課題から課題を抽出し、課題を設定する。
社会	現代社会の課題とその解決策について話し合う。	さまざまな視点から歴史をたどる。	資料を読み取り、自分のことばでまとめる。	自分の将来と結びつけて考える。 自分が考えることを数学期間を使って相手にわかるように説明する。
数学	数式の考えと比較して、自分の考えを修正したり、深めたりする。	自分の得意・不得意を把握し、学習内容の定着を進めようとする。	数式の意味や活用方法を理解し、問題に挑戦する。	資料で学んだことや自分の考えを数学期間を使って相手にわかるように説明する。
理科	仮説を立てて、仮説検証を行う。	物質や自然に関する事象・現象について自ら調べて学ぶ。	自然の事象・現象に疑問を持ち、問題を立てて解決する。	資料で学んだことや自分の考えを数学期間を使って相手にわかるように説明する。
英語	「自分の英語力と英語学習の進捗状況」を振り返る。 「自分の英語力と英語学習の進捗状況」を振り返る。	「自分の英語力と英語学習の進捗状況」を振り返る。	「自分の英語力と英語学習の進捗状況」を振り返る。	「自分の英語力と英語学習の進捗状況」を振り返る。
音楽	「自分の音楽の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の音楽の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の音楽の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の音楽の楽しみや表現の仕方」を振り返る。
美術	「自分の美術の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の美術の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の美術の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の美術の楽しみや表現の仕方」を振り返る。
体育	「自分の体育の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の体育の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の体育の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の体育の楽しみや表現の仕方」を振り返る。
技・家	「自分の技・家の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の技・家の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の技・家の楽しみや表現の仕方」を振り返る。	「自分の技・家の楽しみや表現の仕方」を振り返る。

※「知りたい」という気持ちこそ、すべての原動力。(荒川亮己)

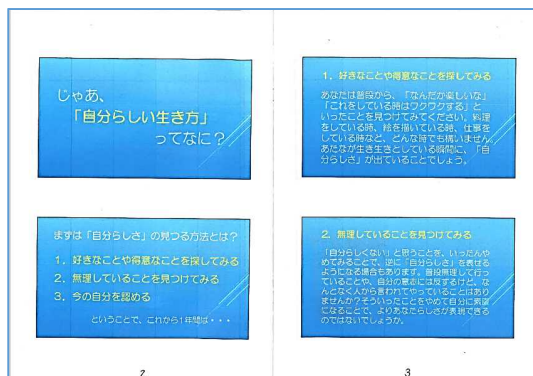
教育活動と関連する基礎的・汎用的能力



・各教科とどのように結びついているのかを生徒に示し、共有している。

例) 国語科
「話し合いやスピーチ等で相手を尊重しながら自分の意見を伝える」
(人間関係形成・社会形成能力)

★それぞれの教科の中ですでにあるキャリア教育の要素(キャリアの断片)を見いだすことが大切(2014 筑波大学・藤田)。生徒が学ぶことと将来のつながりを見通せるものになっている。



・南中学校版キャリアノートの最初には、「自分らしい生き方」について書かれており、学びの動機付けとなっている。

★大切にしたいこと、意図を伝え、この学習の意義を提示することが生徒のモチベーションにつながる。

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

【別添資料 1-7】

大分豊府中学校のポートフォリオ

●自分が2学期間、特に頑張ったこと

第1位(Iris)
具体的に例をあげましょう。
Irisの合唱を頑張りました。ペトリターという立場と伴奏者という2つの立場をするのは難しく大変でしたが、周りの人に助けをもらいながらやりとげることができました。

第2位(体育祭)
具体的に例をあげましょう。
実行委員としても3年生としても最初は課題だらけでしたが、話し合いを覚えて各クラスや学年としての団結力が高まりました。

【評価基準】 A(大変良い)・B(よい)・C(努力が必要)・D(大いに努力が必要)】

●係(委員会)の取り組み満足度 (A・B・C・D)
(評議) 係・委員会
理由 後期は呼びかけを少なくすることを目標にしていて、その目標を達成できているし、クラスも自分で時計を見て行動する人が増えてきているから。

自分の学級目標達成度を書いてください。
●学級目標の達成度 (A・B・C・D)
理由 前回はできなかったせんぼで苦戦をして何かをする「壁雪の功」ができましたから。

2学期で特にできたこと(ひ)を挙げましょう。(複数OK、最大5個まで)

安全に気をつけ落ち着いた生活ができる	進んで新しい考え方や方法を見つけ、自らの個性をいかした生活を工夫する
時間を守って行動する	思いやりや感謝の気持ちをもち行動する
身だしなみに気をつける	広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする
場や相手にふさわしい挨拶や言葉づかいをする	進んで自然を愛護し、自他の生命を尊重する
忘れ物がなく、提出物の期限を守る	進んで清掃や奉仕活動をする
心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている	正と不正を見極め、公正・公平な態度をとる
自ら進んで目標の実現に向け、根気強く努力する	ルールやマナーを大切にすると共に公共のために役立つことを選んで行う
自分の役割を自覚し、最後までやり遂げる	

3.【もう少し改善していきたいところ】
根気強く努力することを改善したい。3学期は何か1つ卒業まで続けることを目標にする!!

教育活動と関連する基礎的・汎用的能力

①人間関係形成 社会形成能力	②自己理解・ 自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプラン ニング能力

- ・「学期で自分が頑張ったことについて記述する」等、項目で学期を振り返る。
- ・A・B・C・Dの4段階で自己評価する。
- ・学級目標も振り返りをさせる。

〈同じ生徒の1学期末の振り返り〉

「だいすけ」の「だ」があまりできず、行動が全体的に遅かったので、次は何があるかを考えてすばやく行動できるようにする。」



- ★この生徒は1学期できてなかった目標が2学期は達成できたと自己評価している。

★振り返らせたいポイントを明確にし、次学期の見通しを持たせている。

★ポートフォリオは、最後はキャリアノート(またはキャリアファイル)にためていき、これまでの自分を振り返ることができるよう足跡を残していく。

【別添資料 1-8】

大分豊府中学校の「my way project」

教育活動と関連する基礎的・汎用的能力

①人間関係形成 社会形成能力	②自己理解・ 自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプラン ニング能力

【目的】スケジュール管理能力を培い、自分で目標を立てて継続する力を養う。

【内容】生徒会による新たな取組として本年度後期より開始した。

将来なりたい職業やなりたい自分などの長期的な目標と、今月継続して実施したい短期的な目標を記述し、スケジュールを立てる。

11 2023 NOVEMBER

計画 計画の立て方
毎日の目標(短)を立てて
から行動をする。

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

毎日の小さな努力の積み重ねが、歴史を作っていくんだよ。 ドラえもん

・この生徒は「計画性のある大人」を将来の目標とし、そのためには今月は「毎日目標(予定)をたてて行動すること」を目標とした。



- ★将来の夢、目標に向けてスモールステップで達成できそうな短期目標を立てることで自己管理力の育成をめざす。
→書かせっぱなし、立てさせっぱなしにさせないように注意している。

【別添資料】学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

【別添資料 1-9】

大分豊府中学校の「大分花園中学校」

【目的】自分で考え、自分で学ぶという自分で行動できるたくましさを育成する。

【内容】大学や一般企業を招き特別講座を年5回実施する。生徒は興味のある講座を自由に選択でき、保護者も参観することができる。

〈生徒への願い〉

Starting Point 学びの**起点**を。

人工知能をはじめとする科学技術の発展に加え、気候の変動や人々の価値観の多様化など、さまざまな要因が複雑にからみ合うことで、社会が激しく変わり続ける新時代となりました。

このような時代の中では、変化に自分たちを合わせていくような「柔らさ」だけでなく、「つくりたい未来」を描き、自分たちで変化を創り出していく「たくましさ」、つまり、自分で考え、自分で行動できる「たくましさ」が必要となります。

また、新時代を生きる生徒のみならずには、1人で閉じてしまうのではなく、他者や外界とのかかわりの中で、ウェルビーイングを求め続ける姿勢も必要となります。

そして、学校にとって、多様な先生方の時間的余裕を基盤としたウェルビーイングの向上への対策も大切です。

これらの想いを形にした取組が、休日の特別講座、大分花園中学校です。

大分花園中学校では、大学の先生や企業の方が講師となり、専門的な内容について、実技や実験や対話を交え、1人では学べない学び、より楽しくおもしろい学びを展開します。

この「楽しい、おもしろい」という思いが起点となり、「もっと学びたい」や「他のことも学んでみたい」という考えを生み、「自分で学ぶ」という行動を生む。さらには、自分の将来を含め、みなさんが「つくりたい未来」を描き、行動していく――

大分花園中学校での学びが、自分で考え、自分で行動できる「たくましさ」の起点となることを期待しています。

1

〈講座・例〉

光るスーパーボール、スライム燃料電池を作成してみよう ラゲルのナノ化学～	崇城大学
酸が味方か！微生物を知って何なる？	崇城大学
ピンチの時の英会話	大分大学
導入編 計算機システムとその応用について	大分大学
ホームワイドで買える材料と工具でお湯で動く機械 「低温度差スターリングエンジン」を作った	大分大学
プログラミングなどのソフト開発が、社会問題解決 できること	株式会社 オーイーシー
建築・インテリアの観点から災害時に必要な仮設構造 (防災ベッドやグランピング)について学ぶ	日本文理大学

教育活動と関連する基礎的・汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプランニング能力

〈生徒の生活ノートより〉

・花園中学校に参加しました。新鮮な気持ちでした。私は英会話とプログラミングを学びました。どちらも今後の将来に役立つことでした。学んだことを基に自分の将来について考えていきたいです。

〈受講後の生徒の感想〉

- ・何事もやってみなくてはわからないことを経験させてくれる講座だった。
- ・自分が普段触れない分野の楽しさや考え方、知識に触れて、物の見方が増えた。経験することで自分に落とし込めた。教科書にない勉強の大切さがわかった。



★将来に向けて自分と向き合う活動、学びと将来をつなげる活動が展開されている。

興味・関心に基づく勤労観や職業観の形成、自分の生き方の探索、自己理解につながっていく。

【別添資料 1-10】

大分豊府高等学校の「ミラ Navi」

高校ではこれをやっておく！	自分の考えを他人に伝える	基礎体力作り	新しいことへのチャレンジ	社会常識やマナーを学ぶ
活かせる高校の科目	物理・数学・地理・家庭・政治・経済	物理・数学・化学・情報	倫理・生物・現代社会・英語	政治・憲法・現代社会・経済史・歴史
つながりそうな職業・解決できそうな社会課題	建築士・福祉・防災・防災・防災	自動車整備士・環境観察型エネルギー	心理カウンセラー	政治家・国家公務員・地方公務員

教育活動と関連する基礎的・汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力	④キャリアプランニング能力

・ワークシートでは、「高校でこれをやっておく」「活かせる高校の科目」など、今の学びとつなげる項目が設定されている。

★「つながりそうな職業・解決できそうな社会課題」という欄もあり、社会でどう活かせるかを考えるきっかけとなっている。

★自己理解の深化に加え、進路の現実吟味、将来設計、社会的移行の準備が高等学校では必要となる。